



# やまべ



令和6年  
1月9日発行  
第9号

## 新年を迎えるに当たって ～ 失敗は宝物 ～

校長 平澤一彦

新年あけましておめでとうございます。

希望に満ちた新しい年がスタートしました。保護者の皆様、地域の皆様には、新春を健やかにお迎えのことと存じます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、9日の始業式では、子どもたちに次のような話をしました。

昔から「一年の計は元旦にあり」と言われます。元旦というのは、一月一日のことですが、この「計」という言葉は計画のことです。「何をするにもきちんと計画を立てて実行することが大切です。だから、「一年の計は元旦にあり」とは、一年の初めにしっかりとした目標を立てて取り組みましょう」という意味の言葉です。ぜひ、今年一年の目標を立てて、その目標が達成できるように日々の生活を大切に過ごしてほしいと思います。

そこで、皆さんに大切にしてほしいことがあります。それは、失敗を恐れないことです。皆さんの中には、「失敗することは悪いことだ」とか「恥ずかしいことだ」と思っている人がいるかも知れません。でも、本当にそうでしょうか。「人間は転ぶことで歩くことを覚える」という言葉があります。赤ちゃんは、はじめ歩くことができません。ある時期に立ち上がって歩こうとしますが、すぐに歩くことはできません。何度も歩こうとしては転び、転んではまた歩こうとして頑張ります。家族のみんなは、にこにこしながら赤ちゃんを励まします。そして、とうとう歩くことができた時、周りにいた家族も大喜びで赤ちゃんを抱きしめます。そう、赤ちゃんが転ぶことを「悪いことだ」とか「恥ずかしいこと」なんて思う人はいません。赤ちゃんは、何回も「転ぶ」ことを経験したからこそ、歩けるようになるのです。皆さんは、はじめて歩いた日のことは、覚えていないかも知れませんが、自転車に乗れるようになった時や逆上がりをはじめてできた時には、それまでに何回も失敗したこと、それでもあきらめずに練習をしていたことを覚えているのではないのでしょうか。人間は生まれた時にはできないことを、その後にはできるようになっていく不思議な動物です。でも、それは「失敗すること」を恐れたり、嫌がったりしてはできないのです。

もう一つ大切なことがあります。それは失敗した人を笑ったり、からかったりしないということです。失敗した人を笑ったり、からかったりする人がいると、頑張る気持ちがくじけます。みんなが赤ちゃんを励ます家族のような優しさをもって、安心して失敗できる学校をつくる必要があります。新しい年がスタートしました。チャレンジ精神をもって、いい年にしましょう。

これからの3か月は、子どもたちが次の学年に進む準備をするとともに、一年間の総まとめとなる大切な時期です。また、一年間で一番短い学期です。だからこそ、一日一日を大切にそれぞれの目標に向かって、失敗することを恐れず「失敗は宝物」という気持ちで、頑張ってもらいたいと思います。今年も山部小の子どもたち一人一人が充実した学校生活を送ることができるように、そして希望をもって次の学年へ進級・進学できるように教職員一同全力を尽くしてまいります。保護者の皆様、地域の皆様の一層のご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。